

- 近世の鹿角街道には、いくつかルートがありますが、盛岡藩の城下町である盛岡から岩手郡、二戸郡、鹿角郡の土深井から秋田藩に入り、十二所、扇田などを経て、岩瀬(大館市)で羽州街道に至る街道でした。
- 平安時代に出羽国で夷俘の蜂起した「元慶の乱」(878-879年)の時に、陸奥国からの鎮圧軍の通った「流霞道」(リュウカドウ)がこの街道の初出といわれます。
- また、奥州藤原氏を支えた「奥大道」も岩手・鹿角地域を経て、外ヶ浜(現青森市)に通じていたものと思われます。そして江戸時代に尾去沢鉱山が藩営にされると、この街道は盛岡城下や大坂へ銅を運搬する重要な役割を果たしていました。
- この鹿角街道には、一里塚や道標、旅人の供養碑などの史跡が残っていることから、文化庁の「歴史の道百選」として、梨ノ木峠から湯瀬までが平成8年に選定され、令和元年には西根寺田から梨ノ木峠までが追加選定されました。
- 今、新たな観光の方向として、街道ツーリズムと周辺の自然や地域文化に触れるアドベンチャーツーリズムの融合が期待されていることから、鹿角街道とアドベンチャーツーリズムをテーマとして、とうほく街道会議交流会を開催したものです。

● 第一部「フォーラム」〔令和5年10月6日(金)〕

(八幡平市・新安比温泉静瀧閣)

【主催者・来賓あいさつ】〔13:00～13:50〕



とうほく街道会議 宮原会長

八幡平市 佐々木市長

岩手県道路建設課総括課長 (岩手土木センター富岡所長代読)

岩手河川国道事務所 近藤所長

【基調講演】 「奥州藤原氏から始まる八幡平地域の歴史と街道」〔14:40～14:40〕



講師:八重樫 忠郎 氏(平泉世界遺産ガイドセンターセンター長)  
 奥州藤原氏の栄華により、北方～南方、太平洋～日本海の物資・文化の交流、それに伴う街道の発展。動乱を経ながら古代・中世・近世にかけての郷土の歴史を平泉文化から始まる歴史の観点から概説して頂きました。

☞この中で、北方の日本海や太平洋の物資が奥大道(鹿角街道)を通して、平泉にもたらされていたのは明らかだということです。

【分科会(パネルディスカッション)】 「鹿角街道が繋ぐアドベンチャーツーリズムの可能性」〔15:00～16:30〕



近年、アクティビティを通じて、地域独自の豊かな自然・歴史文化に触れるアドベンチャーツーリズムの融合が期待されています。八幡平市での鹿角街道と歴史文化が繋ぐアドベンチャーツーリズムの可能性について考えました。

- ファシリテーター 柴田 亮 氏(株)八幡平DMO 取締役CMO)
- アドバイザー 八重樫 忠郎 氏(平泉世界遺産ガイドセンターセンター長)
- パネリスト 小山田 和義 氏(八幡平歴史夢街道の会 会長)
- 島山 城司 氏(七時雨ロマンの会 事務局長)
- 階 ケイティ氏(株)みちのリトラベル東北)
- 久保 竜太氏(縦糸横糸合同会社)



☞鹿角街道や地域の文化を要素としたアドベンチャーツーリズムの可能性は大きいですが、ダイナミックなストーリーの中で、鹿角街道を歩きながら、郷土食・漆の文化などに触れるツアーを組む必要があること。そのため、先ずは地域の人々が郷土に誇りを持つこと必要とのこと。

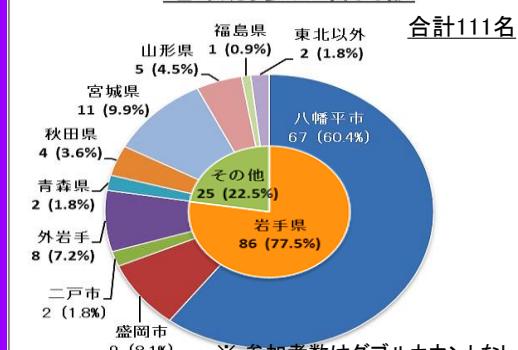
【活動パネル展】〔13:00～16:30〕



● 第二部「街道談義」〔17:00～19:00〕



地域別参加者内訳



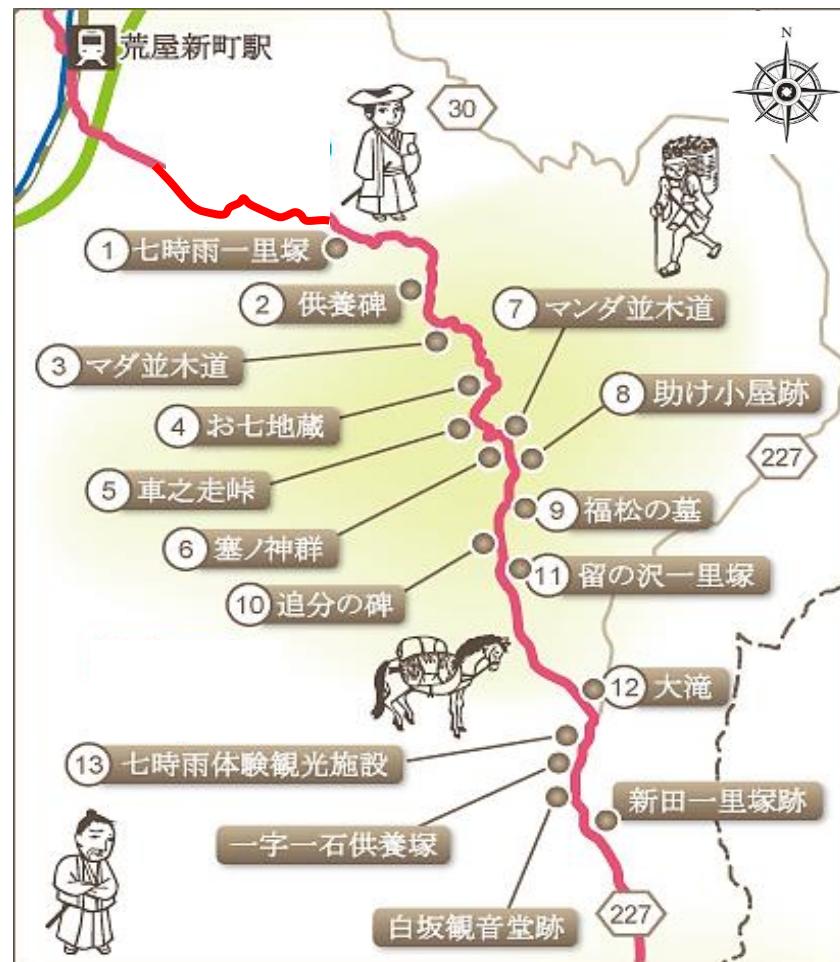
【A:七時雨一里塚～曲田一里塚コース】 (8:30～11:45)

■ コース (8:30)新安比温泉駐車場発⇒(8:45)七時雨一里塚～  
(10:20)荒屋一里塚⇒(10:40)曲田一里塚⇒(11:30)新安比温泉着



【B:白坂観音堂跡経由 留の沢一里塚～七時雨一里塚コース】 (9:00～12:30)

■ コース (9:00)新安比温泉駐車場発⇒(9:40)白坂観音堂跡⇒  
(10:10)留の沢一里塚～(10:40)助け小屋跡～(11:00)車之走峠～  
(11:30)マダ並木道⇒(12:00)七時雨一里塚⇒(12:30)新安比温泉着



【S:荒沢漆器の展示と講演】 (13:30～14:30) ※五日市コミュニティセンターで開催された「荒沢漆器にふれる会」に希望者で参加



「荒沢漆器」は、この地方で古くから生活雑器として作り・使われた漆器で、荒屋新町の4日の市でも販売されていましたが、高度経済成長期に樹脂塗料などの普及により消滅しました。しかし、1980年代に新たな塗り方を取り入れ「安比塗」として生まれ変わりました。